七塚小　学校だより　くんとう

薫　陶

令和４年１月25日（火）

一人一人が生き生きと力を伸ばす

七塚小学校 HP　http://cms1.ishikawa-c.ed.jp/~nanate/

かほく市立 七塚小学校
校長　宗廣 進一

きびしさ と やさしさ

寒い日が続きます。それでも，少しずつ日が長くなり，春が近づいていることを感じさせてくれます。　「冬来たりなば春遠からじ」。今は不幸な状況であっても，じっと耐え忍んでいれば，いずれ幸せが巡ってくるという例えにも使われることわざですね。　数か月後にはまた，青い空の下，青い海のそば，白砂青松のこの地で，木津桃のかわいらしい花と共にぽかぽかと温かい春を満喫できる日が来ることでしょう。

冬が来る前にエンドウ豆の種を植えました。何年か前にも雪解け後に植えたことがありましたが，大きくなる前に収穫期が訪れて，あまり収穫できなかった苦い思い出があります。今回は，教えてもらった通り，冬が来る前に日当たりの良い場所に苗を植え，冬を乗り越えさせています。ちょうどよい大きさの幼苗のときに厳しい寒さを乗り越えさせないと花芽が出ないそうですね。冬前に大きく育て過ぎても苗は寒さに負けてしまうそうです。苗にとってちょうど背丈の時に厳しい冬を乗り越えさせることでその間に逞しく根を張り，春にはぐんぐんと成長して初夏に結実させるといいます。

この話を聞いた時，エンドウ豆の逞しさを思うとともに，私たち人間にも同じことが言えるのではないかとも思いました。エンドウ豆の成長には適した時期に日当たりと厳しい寒さが必要なように、子どもの心の成長にも，このように全く反対のものが必要ではないかと思ったのです。

それは，「やさしさ」と「きびしさ」です。子ども達は，「やさしさ」だけでは甘えがでたり，わがままがでたりして，よい心は育ちません。また逆に，「きびしさ」だけでも気持ちがすさんだり，いじけたり，いらいらしたりして，よい心は育ちません。

子ども達は，一日の生活の中で，褒められたり注意されたりする機会が何回かあると思います。そのときどきで，きびしく注意したり，やさしくほめてあげたりすることが必要です。きびしく叱ったり，指摘したりした後で，なぜ注意されたのか気づくようになれば，ほめてあげることも大切です。

子ども達は時々過ちを犯すこともあるかもしれませんが，そのときに，きびしく注意されたり，やさしくほめられたりすることによって，的確な判断ができる人に成長していきます。このようなことを繰り返し経験することにより，社会の一員として，自覚をもった人間に成長していくのだと思います。

個々の子どもの褒められたり叱られたりした履歴を学校と家庭とが情報共有しながら，手を取り合って育てていきたいと思います。

２月の生活目標　**『ありがとう』の気持ちを伝えよう**

学校生活も家庭生活も，子ども達にとっては大切な社会です。それぞれ，いろんな人に支えられながら生活ができ，成長できています。

そのようなことに思いを巡らせることができる人は，他を認め，ひいては自分を肯定し，自分の力をさらに伸ばしていくことができる人だと思います。

今月は，お世話になっている人への感謝の気持ちを確かめ，相手に伝える力を育みたいと思います。